



# HIGA NEWS

2022年5月 第59号

編集・発行 一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 (HIGA)



会員の撮った1枚

大崎下島 御手洗地区

## 江戸時代の港町、御手洗

みたらい

おおさきしもじま

御手洗は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する大崎下島にあり、北前船が風待ち、潮待ちをした港町。江戸、明治、大正、昭和の歴史を重ねた町家、商家、邸宅の並ぶ路地を散策すると、しばらく時間を逆戻りする気分になりました。高灯籠に向かって突堤を歩けば、寄せては返すやさしい波の音。小鳥のさえずり、横切る風を感じながら登った丘の展望台からは、のどかな集落と来島海峡大橋、四国の石鎚山が見えました。

なお、御手洗には、アカデミー国際長編映画賞受賞作品「ドライブ・

かんげつあんしんとよ

マイ・カー」の撮影に使われた宿「閑月庵新豊」もあります。



## 新旧会長ご挨拶

3月5日に開催された(一社)ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)定時総会において、古谷章子会長退任及び畝崎雅子会長就任が承認されました。古谷前会長は顧問として引き続きHIGAを支えてまいります。

## 会長就任にあたって

### 会長 畝崎 雅子



ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)設立30周年の今年、5代目の会長に就任いたしました。HIGAは広島アジア競技大会を控えた1992年9月に42名の全国通訳案内士により設立されました。1992年1月に資格を得たばかりだった私もそのうちの1人でした。私はHIGAによって育てられたと感謝しています。ですから、今後、HIGAをさらに力強い団体とすることが私の責務だと考えています。

さて、HIGAの役割は大きく二つあります。一つは個人事業主としての通訳ガイドの技能を高めるために会員が研鑽する場を提供することです。広島平和記念資料館と宮島は、外国人観光客の最も人気のある観光地であり続けています。会員は切磋琢磨して、外国人観光客の鋭い質問やニーズに高い技術でこたえられる努力を重ねています。

もう一つは、広島県および近隣の県で開催される国際イベントへの通訳者の派遣協力です。2015年のボーイスカウト世界大会では、24,000人の少年少女に平和記念公園を案内する活動を行いました。将来、国を担っていく若者たちに感動をもって滞在してもらえたでしょう。また、APECやG7の開催支援や、移民の歴史を通して、広島県と関係が深いハワイ州との交流プログラムなどにも多くの会員が就業しています。

2020年春からは、コロナ禍のため外国人観光客が日本を訪れることのできない状態が続いています。しかし、この間もHIGAの会員は日々、研鑽を重ねています。新型コロナウイルス感染症の収束後は、これまで以上に、地域の皆様の頼りになる国際コミュニケーションのプロとして活躍できるよう願っております。中国運輸局、広島県、広島市、商工会議所をはじめ、関係諸団体各位のご支援を引き続きお願いいたします。

## HIGAとの30年

### 顧問・前会長 古谷 章子



2022年は私にとって特別な年。44年の通訳案内士経歴の大半を占める「ひろしま通訳・ガイド協会」との関わりの30年の節目の年。

1992年9月、会員42名で「ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)」が発足し、94年に開催された広島アジア競技大会では、選手村のツアーデスク、大会通訳など会員86名が延べ834日働いた。

アジア大会の思い出とともに、HIGA発足以来の国際客の増加も印象深い。2003年に当時の小泉首相が「2010年に訪日外国人を1000万人に」と観光立国を宣言、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が始まった。訪日国際客数は2003年の521万人から2008年の835万人に伸びたが、リーマンショックの影響で、2010年は860万人、さらに2011年の東日本大震災で激減した。しかし被災直後秩序を守って支援を待つ被災者、復興への努力が報道されたお陰で、日本は安全で心優しい人の住む国とのメッセージが世界に伝わり、国際客は増加を続け、2019年は3188万人。この好況の中でHIGAの活動は広島だけでなく、クルーズ船の着岸する沖縄・長崎・高知・神戸・境港などにも広がった。通訳ガイドに加え、講演、観光振興に関連する仕事も増え、2019年度会員就業件数は3900件になった。さらに、東京オリンピック・パラリンピックにより2020年には訪日客数4000万人が想定されていた。

しかし新型コロナである。2020年、21年は、通訳ガイド就業件数は皆無に近い。この状況下230名近くの会員は広島歴史、文化、伝統工芸、伝統芸能など20近いサークルを作り、オンラインでの活発な学びを始め、江田島のバーチャルツアー、盆栽アートなどの研修を実施した。これらの取り組みがコロナ収束後に広島を訪れる国際客への魅力的なガイドングにつながると確信している。知的好奇心が旺盛で、努力を惜しまない会員を誇りに思いつつ、設立30年を機に会長職を次世代にバトンタッチする。Good Luck!!

## 現地集合型「仙石庭園散策ツアー」

英語・西語会員 海生 郁子



昨年11月18日、爽やかな秋晴れの中、34名の参加で研修旅行グループ主催の「仙石庭園散策ツアー」(東広島市)が行われました。コロナ禍で2年近く対面形式の行事ができなかったため、参集した会員は、暫し、顔を合わせて会話ができる喜びに浸りました。

古谷章子会長の挨拶に続き、園主の山名征三氏が、築庭の経緯、庭の特徴や見所を話してくださいました。山名氏は、80歳半ばの現在もリウマチ・膠原病の医師として活躍される一方、2000年頃から私財で東広島市高屋に広大な耕作放棄地を購入、また、全国から数多くの奇岩・巨岩を収集し、独自の美意識で12,000坪もの庭園を築かれた類い稀な方で、造園に対する熱意、飽くなき探究心に一同感銘を受けました。

講話後は、グループに分かれ、山名氏を含め3名のガイドさんと、園内を散策しました。それぞれに興味深いエピソードを交えての珍しい石の話、購入の経緯、地質学的な説明等で、園内の散策を楽しませて頂きました。

園内には、庭、池、築山、滝、石組といった日本庭園の伝統的要素が意匠を凝らして配置されている他、バーベキュー施設、ピザ釜、瞑想室など、山名氏の創意工夫が随所に見受けられます。

山名氏の庭園に対する構想は、現状に留まることなく、進化し続ける庭園であるとのことでした。庭園の今後に期待したいものです。

山名氏はじめ、スタッフの皆様には、ガイドツアーや移動手段の便宜を図って頂きましたこと、この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

対面行事の楽しさを改めて感じた1日でもありました。1日も早くコロナ禍が収束し、会員と顔を合わせて行事ができることを願っています。

## 「ヒロシマ 沈黙の証人たち」 研修をふり返って

英語会員 北川 雅子

年の瀬も迫った昨年12月18日、マニュアルグループによる「ヒロシマ 沈黙の証人たち」のオンライン研修が行われました。

研修は、第一部「被爆建物」、第二部「被爆樹木」の2部構成で開催され、9名の会員による発表がありました。

第一部「被爆建物」では、まず、市内の被爆建物の概要と保存に関わる情報や、長く懸案になっている旧陸軍被服支廠の保存に向けての最新の動きなどが紹介されました。続く発表は「本川小学校平和資料館」、「旧日銀広島支店」、「袋町小学校平和資料館」。それぞれの沿革や展示が詳しく紹介され、聞きながら各々の場所とそれに関わる人々の様子が目に浮かぶようでした。例えば、本川小で奇跡的に生き残った二人のうちの一人である居森清子氏、原爆死没者慰霊碑碑文の原文と雑賀教授。日銀の被爆前後の様子や、原爆投下後の混乱の中、日銀の果たした役割。袋町小の壁に残された伝言やジュノー博士など…。

第二部「被爆樹木」では、最初にその定義、登録、標識の読み方について説明がありました。続く「被爆樹木の歩み」では、同じ被爆地長崎との比較が紹介され、また被爆樹木に関する様々な疑問に、樹木医さんのお話や学術論文などで裏付け

しながらわかりやすく解答。縮景園のイチヨウの傾きは明治の頃から、という自分にとっては新たな発見もありました。



旧陸軍被服支廠

「被爆樹木巡り」では、認定の範囲(爆心地より2km)の境界線上にある被爆樹木をいくつか訪ね、比治山のクスノキとソメイヨシノや、原爆の火災から寺を守ったと伝えられる安楽寺のイチヨウなどが紹介されました。「被爆樹木の未来」では、行政や民間の保存への取り組み、樹木医堀口力氏の多方面にわたるご尽力、「緑の伝言プロジェクト」などが紹介されました。最後に、被爆樹木の絵本『きっと きこえるよ』の朗読。

被爆の実相を語る証言者が高齢化する中、被爆建物・被爆樹木は、物言わぬ証人としてその重要性が増しつつあると言われます。この研修が私達にとって、その存在に気づき、その声に耳を傾けるきっかけとなりますよう願います。

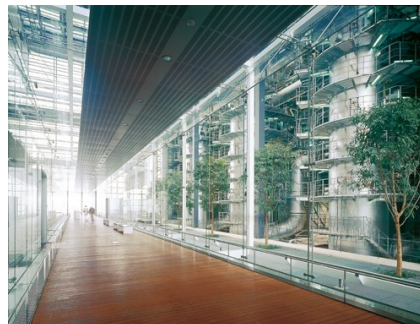
# 広島フィルム・コミッション 西崎智子氏をお迎えして

英語会員 上田 美紀

この2年、自宅の小さな画面で映画を見るばかりだった私にとって、「ドライブ・マイ・カー」は久しぶりに映画館の大画面で見た作品です。ご存知の通り、世界の名だたる映画賞を受賞したこの作品の3分の2は広島で撮影されました。広島高速、安芸灘大橋、平和記念公園・・・見慣れた光景を見ながら、濱口竜介監督の緻密に計算された演出に3時間すっかり魅了されました。世界的に注目された作品の舞台がなぜ広島となったのでしょうか？

その理由を聞くことができたのが、広島フィルム・コミッションの西崎智子氏をお迎えして開催されたオンライン講演会でした。アカデミー賞受賞の発表から間もない4月3日、HIGA会員を対象に開かれました。観客側からは見えない裏話の数々、2時間があっという間でした。広島で撮影した映画関係者はその後も広島のことを気にかけてくれているようで、広島人としては嬉しい限り。そこには西崎氏のお人柄と熱意が多分に影響しているのではないかと感じました。

は、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑、平和記念資料館を結ぶ「平和の軸線」と幹線道路を通じて繋がっており、吹抜けの通路からさらに背後の瀬戸内海へと続いていきます。そこに込められた平和への思いが、映画の大事なシーンに使われました。映画の中では語られないヒロシマですが、結果的に広島という場所が、映画のテーマである「喪失と再生」に繋がっているように感じます。



広島市中工場(上)と背後の海での撮影風景(下)

海外でもコアなファンが多い村上春樹氏の原作に、多言語や手話を加味することで、国境を越えた多様性も感じます。異なる言語でコミュニケーションを取りながらお互いに歩み寄ることは、私たちガイドの仕事と重なります。

これまで海外の映画関係者には「ヒロシマ・モナムール」(1959)の舞台として知られていた広島。西崎氏はこの映画の主演であるエマニュエル・リヴァ氏が50年ぶりに再訪した際もご案内され、その時の思い出も語っていただきました。今後は映画を見た世界中のお客様が、「ドライブ・マイ・カー」の広島”を見に、そして感じにやってくるのではないかと期待が膨らみます。広島の魅力を新たな視点から伝えていきたいです。



西崎智子氏によるオンライン講演会の様子

当初は韓国で撮影予定でしたが、コロナ禍で移動が困難になったため、濱口監督は急遽国内での撮影地を探していました。その時、監督を西崎氏がイチオシの「中工場」にお連れしたのが決め手になったとのこと。この広島市のゴミ処理施設

## HIGAの活動報告 (2021年11月～2022年4月)

- 11月 18日 (木) 仙石庭園ツアー (東広島市)
- 12月 4日 (土) 通訳案内研修 (法定研修・自主研修) (オンライン)
- 12月 18日 (土) オンライン研修「ヒロシマ 沈黙の証人たち -被爆建物・被爆樹木-
- 3月 5日 (土) 2022年度定時総会・懇親会 (オンライン)
- 4月 3日 (日) 西崎智子氏 (広島フィルム・コミッション) オンライン講演会



広島平和記念公園対岸  
元安橋たもとのオープンカフェ

## Caffè Ponte

カフェ・ポンテ

【住所】広島市中区大手町1丁目9-21  
【予約専用電話】082-247-7471  
年中無休

大正十四年創業



## 宮島 藤い屋



〒739-0588 広島県廿日市市宮島町 1129  
TEL 0829-44-2221 FAX 0829-44-2022  
オンラインショップ <http://www.fujiya.co.jp>

# 人間魚雷「回天」の記念館を訪れて

英語会員 一反田 昌子

人間魚雷とは、人間が乗り込むように改造された魚雷で、大量の爆薬を搭載し兵士が操縦しながら敵艦に体当たりするという特攻兵器です。海の特攻とも言われ、人間を戦争の「道具」として扱った玉砕覚悟の手段です。この兵器の搭乗員の訓練基地が、山口県周南市大津島に置かれていました。基地は現在は、「周南市回天記念館」となっています。会員4名で徳山港から船に乗り、この記念館を訪れました。

「回天」という名称は“天を回らし、これまでにない兵器で戦局を逆転させる”という意味で使われました。

記念館の入口には人間魚雷の実物サイズ（全長14.75m、直径1m）のレプリカ（写真）が置かれています。窓一つない黒い円筒の物体に閉じ込められて海中で一人玉砕していく兵士の姿を思うと、いたたまれなく、息苦しくなりました。館内には、回天誕生から終戦までの軌跡が様々な展示物と共に記されています。

人間が直接操縦すれば攻撃の精度が上がるはずでしたが、元々は魚雷です。装備が不十分で

操作は煩雑で難しく、機体の安定も悪く、目的地まで到達することさえ困難でした。その

ため厳しい訓練が繰り返されました。「回天」の出撃地は遠くニューギニア島近辺にまで及び、出撃による戦死は、搭乗員が106名、整備員36名、基地員など3名。アメリカ軍側の艦船の損害は、沈没したものの3隻、損害を受けたもの4隻とされています。

記念館を後にし、回天運搬用トンネルを通じて、全国で唯一残されている「回天」の訓練基地へ向かいました。今はただひっそりと佇む遺構と爽やかな青い海と空が対照的で、若くして逝った戦死者を悼むと共に、むごい戦争を二度と起こさないために史実に学び、関心を持ち続けることの大切さを実感しました。



仕事の現場から

## 被爆者との思い出をオンラインツアーに

英語会員 中島 美幸

オンラインという言葉が広まりつつあった2020年、（公財）広島観光コンベンションビューロー主催のオンラインツアー作成プロジェクトに参加しました。私にしか作れないツアーは何だろうと考えた時、頭に浮かんだのは、2017年にアメリカ人映像作家の通訳として被爆者との対談に同行した実体験でした。その時に出会った素敵な被爆者との思い出をツアーにしよう決めました。

半年かけて完成したのは、オンライン体験「被爆者の実話」です。ツアーは1時間、ズームによるライブ配信で行います。被爆者の体験を聞いて驚いた事や取材中の出来事を私の感性でまとめ、事前にパワーポイントに収録し、ライブ配信内で見てもらいます。

ツアー当日、画面に参加者が現れるととてもうれしい気持ちになります。まるでお友達を自室にお招きしている感じです。私はこのツアーを通して参加者の方々と交流できる事も楽しみの一つと考えています。お互いの事を話したり、広島について聞いてもらったり、本編では

事前収録の3名の被爆者のお話を見てもらいます。スライドには私の撮った写真や動画、自作のイラストを組み込みました。ツアーの終わりには原爆に関する簡単なクイズも準備し、皆さん真剣に考え、答えてくださいます。

ツアー中に参加者は、悲しまれたり、驚かれたり、笑顔になったり、新しい発見をされたりするようです。ツアー中は対話をする場面も多く、さまざまな感想を話してくださいます。そしてツアーが終了し、画面を閉じる時には、対面でガイドをしている時と同じように、お別れするのが名残惜しい気持ちになります。

このツアーは英語で開催しています。これまでに、アメリカ、シンガポール、中国、日本からの参加がありました。コロナ禍でまだ日本に來られない海外のお客様に引き続きご参加いただきたいのはもちろんのこと、日本の修学旅行生の事前学習に使っていただくなど、さらなるオンラインツアーの可能性を探っていきたいと考えています。


**つばめ交通株式会社**

〒732-0066 広島市東区牛田本町4-5-10

総機センター 082-221-1955  
<https://www.tsubama.co.jp/>



## 賛助会員募集中

インバウンド観光の振興に関心をお持ちの団体・個人の皆様 ぜひご入金ください!

(一社) ひろしま通訳・ガイド協会 (HIGA)  
TEL 082-243-8346

# H I G A文化講演会のご案内

設立30周年記念座談会「あの日あの時、そして未来へ」

～すべては広島アジア大会からはじまった～

開催日：2022年10月29日（土）

会 場：CLiP HIROSHIMA（広島市中区東千田町1丁目1-18）

会場からハイブリッド形式にて行います。

詳細は、HIGAホームページにて8月末までにご案内予定です。

## 【ご協力ありがとうございます】

~with sincere thanks~



### HIGA賛助会員の皆様（2022年5月現在 順不同、敬称略）

団体会員： 広島紅葉ライオンズクラブ 広島商工会議所 広島トヨペット（株）  
 （有）はやし JTB協定旅館ホテル連盟広島支部 つばめ交通（株）  
 （株）藤い屋 （一社）広島県観光連盟 カフェ・ポンテ 岩惣  
 広島県民文化センター あいおいニッセイ同和損害保険（株）

個人会員： 古谷 英明 延本 真栄子 吉中 康麿 嘉屋 基一 藤井 倫子  
 清水 憲吉 辻 孝和 吉井 敏弘 河野 博行 海生 直人  
 くらわんか 青野 重信 藤井 芳子 田島 謙治 花やしき

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会に入会をご検討くださるようお願いいたします。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGAニュースに広告掲載の特典があります。

お申込み、お問合せは当協会事務局 082-243-8346（月～金 11:00～14:00）まで。

※現在新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応のため、事務局受付時間を短縮しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本誌へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA事務局へFAX・Eメール：higa@urban.ne.jp どうぞ。

【表紙の写真・文】 英語会員 光成 美恵子

【編集後記】島は古くから海を介し旅人を受け入れ、海外ともつながっていた一、という視点で瀬戸内海の島々を捉えたのは周防大島が生んだ民俗学者・宮本常一だった。そんな島の一つ、大崎下島が映画「ドライブ・マイ・カー」で主人公の滞在先に選ばれた。宿泊したのは、江戸時代末の建物を改装した宿だ。2007年に呉市に移住したIさんが手がけた。5年前に古民家カフェをオープンさせたばかりのIさん取材した時、「島の人々の協力があってこそ」と話してくれたことを思い出した。映画を通じ増えるであろう旅人たちも、島はきっと温かく迎えてくれるに違いない。（ふ）

みやじまの宿

# 岩惣

〒739-0522 広島県廿日市市宮島町もみじ谷  
 TEL 0829-44-2233 <http://www.iwaso.com/>

喰かきの  
ばやし

おかげさまで七十二周年  
 宮島で一年中  
 生かきが食べられます

TEL 0829-44-0335

